

## 日本都市学会第70回大会 開催のお知らせ

### 1. 開催概要

開催日 2023年11月3日(金・祝)～11月5日(日)

開催地 神奈川県小田原市

主催：日本都市学会・関東都市学会

後援：小田原市

会場：小田原三の丸ホール(小田原市本町 1-7-50)・小田原 UMECO(小田原市栄町 1-1-27)  
小田原駅下車徒歩 15分(三の丸ホール)5分(UMECO)

### 2. 大会テーマ「データにもとづいた都市政策の形成」

### 3. スケジュール

※時間に変更になる場合がありますので、後日、以下の URL の大会ホームページ (Peatix サイト) で公開されるプログラムでご確認ください (QR コードは右)。

<https://urbanology-odawara.peatix.com/>

日本都市学会ホームページからもリンクがあります。



11月3日(金・祝)

14:00～17:00 エクスカーション (14:00 小田原駅前集合) 参加費 1000 円

「地方再生コンパクトシティ・SDGs 未来都市の現在」

小田原ミナカ・イノベーションラボ、小田原 UMECO、三の丸ホール・観光交流センター  
商店街再開発、旧小田原少年院、小田原駅西口再開発 など 1コース 複数グループ

18:00 ～ 理事会 会場：小田原 UMECO 会議室 7 (小田原駅東口)

11月4日(土) 研究発表・シンポ参加費 2000 円 (プログラム・要旨集込み)

9:00～11:30 研究発表 I @UMECO 会議室 5、6、11

\*昼食は駅周辺にて各自。

13:00～18:00 シンポジウム/学会賞授与式/総会@三の丸ホール小ホール

13:00～13:10 開会挨拶 日本都市学会会長 山崎 健

関東都市学会会長 熊澤健一

13:10～16:30 シンポジウム「データにもとづいた都市政策の形成」

司会進行 平井 太郎 (社会学・弘前大学・会員)

13:10～14:10	基調講演	守屋 輝彦（小田原市長）
14:20～15:20	個別報告	出石 稔（行政学・関東学院大学・非会員） 花田 真一（経済学・弘前大学・会員） 福田 幸二（計数工学・日立製作所・非会員）
15:30～16:30	パネルディスカッション コメント	守屋 輝彦（小田原市長） 奥 真美（政策研究・東京都立大学・非会員）
16:40～17:00	日本都市学会賞授与式	
17:00～17:30	日本都市学会総会	
18:00～20:00	懇親会@報徳会館(仮)	ご挨拶 守屋輝彦市長

11月5日（日）

9:00～12:00 研究発表II @小田原 UMECO 会議室 1、2、3（予備 11）

#### 4. 研究発表の申込

(1)研究発表いただける方は、2023年8月31日(木)までに以下の URL の Peatix から申込と会費のお支払いをお済ませください。

<https://urbanology-odawara.peatix.com/>（QR コードは 1 ページ目）

・チケットのうち「研究発表する+エクスカージョンに参加する」か「研究発表する+エクスカージョンに参加しない」のどちらかとお選びください。

・フォームにも漏れなくご記入ください。

・お支払いいただいた会費の返金はできませんのでご注意くださいませ。

#### (2)研究発表の資格

発表者は会員（入会手続き中のものを含む）に限ります。発表は1人1回限りとします。共同発表者の中に非会員が含まれていても構いませんが、『日本都市学会年報』に投稿される際には、著者全員が会員である必要があります。

#### (3)発表要旨の提出

研究発表いただける方は、上記の参加申込・会費お支払いをお済ませのうえ、2023年9月15日(金)までに、所定の様式の要旨を以下のメールアドレスにお送りください。

e-mail: of-hirai@hirosaki-u.ac.jp（弘前大学 平井太郎）

#### (4)発表要旨の様式

- ・以下の論文書式テンプレートで2ページ以内に収めてください。

<http://www.toshigaku.org/template2022.docx>

(QRコードは右)



- ・共同発表の場合、共同発表者全員の氏名、所属を明記するとともに、口頭発表者（1名のみ）氏名の前に○印をつけてください。なお、発表申込後の共同発表者の変更は認められません。

#### (5)研究発表日時

分科会を構成する都合上、希望はお受けできませんのでご了承ください。10月上旬にプログラムが確定しましたら、以下のURLでご連絡いたします。

<https://urbanology-odawara.peatix.com/> (QRコードは1ページ目)

#### 5. 申込・会費支払

大会参加いただける方は、2023年10月15日(日)までに以下のURLのPeatixから申込と会費のお支払いをお済ませください。

<https://urbanology-odawara.peatix.com/> (QRコードは1ページ目)

- ・チケットのうち「研究発表しない+エクスカージョンに参加する」か「研究発表しない+エクスカージョンに参加しない」をお選びください。
- ・フォームにも漏れなくご記入ください。
- ・お支払いいただいた会費の返金はできませんのでご注意くださいませ。

#### 6. 大会に関する問い合わせ先

弘前大学大学院地域社会研究科平井太郎研究室

e-mail: [of-hirai@hirosaki-u.ac.jp](mailto:of-hirai@hirosaki-u.ac.jp)

#### 7. 宿泊案内

各自で早急に予約していただくことをお勧めします。

#### 8. 査読付き論文の投稿締切について

大会は11月3～5日に開催されますが、日本都市学会年報第57号(2024年5月発行予定)の査読付き論文の投稿締切は2023年11月30日(必着)となります。

データにもとづいた都市政策の形成  
誰のウェルビーイングを目指すのか

日本都市学会会長 山崎 健  
関東都市学会会長 熊澤健一

新型コロナウイルス感染症拡大にともない国際的に都市のありようが問われた。私たちは今、そこでの問いを糧にして、あらためて人口減少や気候変動、グローバル化やデジタル化などに、都市の住民や事業者、そして自治体としてどう向き合うべきか考えねばならなくなっている。

こうしたなか国は、従来の地方創生に代わるデジタル田園都市国家構想において、住民や事業者含めさまざまなプレイヤーの協力を引き出すためにも、ウェルビーイング指標の活用を促そうとしている。地方創生において都市政策の包括的な指標は「人口」であったのに対し、たしかにウェルビーイングを掲げることで人口減少下にあっても前向きな政策を展開できるだろう。また、気候変動やグローバル化などをにらんだときにも、ウェルビーイングを通じて人びとの生活の質を問うことは、不確実性のなかにあってもある程度、揺るぎのない座標を与えるようにも見える。

しかし、ウェルビーイング指標の活用を勧める国においてもすでに、ウェルビーイングをどう測定したらよいのか、また、測定したウェルビーイングをどう政策に落とし込んでいったらよいのかわからないといった自治体側の声に直面している。これに対し国は、データセットやマニュアルを提示したり段階的な活用を促したりしているものの、それではそれぞれの自治体が真に納得したかたちでウェルビーイング指標を活用したことにはつながりにくい。

むしろ、今求められているのは、ウェルビーイング指標をどのように都市政策、地域づくりに活用できるかを、関係者がそれぞれに知恵を絞った結果を広く共有する場を育てていくことである。とりわけ、よりよい政策形成や事業展開を図るには、誰のウェルビーイングに寄与する政策や事業なのかをはっきりと認識して組み立てることが求められる。

今回の大会の舞台となる小田原市は今、「世界が憧れるまち」を掲げ、ウェルビーイング指標をはじめデータにもとづいた政策形成・評価に意欲的に取り組んでいる。幅広い「世界」から憧れを得られるようにしつつ、「世界が憧れる」ことに手応えを得るのは今このまちで暮らし、働く人びとや事業を営むさまざまな主体でもある。そのように、さまざまな主体に目配りする一筋縄ではいかぬまちづくりに挑戦する小田原市の市長も迎え、誰のためのまちづくりをどう進めたらよいかをもう一度問い直したい。そうしてウェルビーイング指標などデータにもとづいた政策形成のあるべき姿をみなさんとともに探りたい。